

# 実証研究結果

- 対象：佐賀県多久市の3校6クラスの小学校5年生(186名)
- 学力向上の効果検証：1日5～10分のタブレットタイムを設け、指導問題(国語・算数)を学習し、実施期間の前後の診断テストにより効果を検証した。
- 診断テスト：学力状況を全国平均と小間ごとに比較分析できるように、関日本標準発行の「標準式CDT-III」をベースとした。
- 実施期間：2014年11月～2015年3月(学力調査実施日：2014年11月、2015年1月)

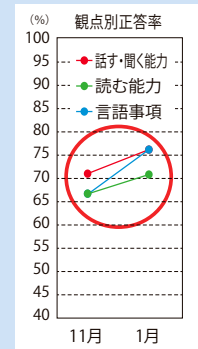
## 1 総合正答率の推移

診断テストの結果を1回目と2回目と比較すると、総合正答率が国語は8ポイント、算数は12ポイント向上しました。

総合正答率(%)				
教科	実施学年	11月	1月	前回実施との比較
国語	5年	67	75	8
算数	5年	55	68	12

※小数点第一位を四捨五入して表示

## 2 観点別分析

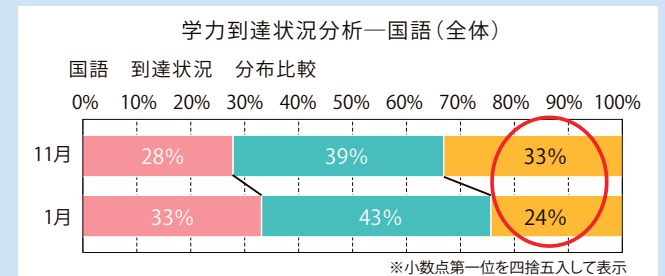


●国語  
「言語事項」が9ポイント向上。漢字・文法という指導問題で学習した「言語事項」の上昇率がほかと比べて高く、指導問題学習の効果といえます。

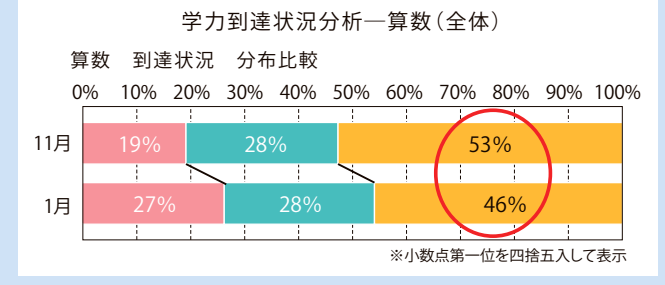
●算数  
指導問題学習で取り組んだ、「数学的な考え方」「技能」「知識・理解」の3観点とも上昇。

## 3 学力到達状況分析

学力到達状況の分布推移を分析すると、両教科ともにC層の割合が減少しており、学力が底上げされた結果となっています。



※小数点第一位を四捨五入して表示



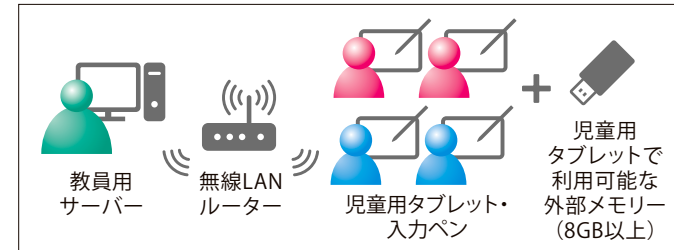
※小数点第一位を四捨五入して表示

※注 A層：成績上位層 B層：成績中位層 C層：成績下位層

## システム構成例

①児童用アプリケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル教材を表示し学習させる児童用学習ソフトウェア。</li> <li>Windowsタブレット対応。</li> <li>タブレット端末を複数児童で共有利用が可能。</li> </ul>
②教員用アプリケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員が利用するサーバーアプリケーション。Webブラウザ(*)により閲覧。</li> <li>(*)対応Webブラウザ：・Microsoft Internet Explorer11以降 ・Microsoft Edge ・Google Chrome</li> <li>児童の学習履歴を集積し、児童の理解状況を教員に提示。</li> </ul>

## 必要なハード構成など



※学習中はオフライン運用が可能です。

## 動作環境

児童用タブレット	OS	<ul style="list-style-type: none"> <li>Microsoft® Windows®7 (32bit/64bit)</li> <li>Microsoft® Windows®8.1 (32bit/64bit)</li> <li>Microsoft® Windows®10 (32bit/64bit)</li> </ul>
	ディスプレイ	<ul style="list-style-type: none"> <li>タッチパネル型(ペン入力必須)</li> </ul>
教員用サーバー	OS	<ul style="list-style-type: none"> <li>Microsoft® Windows®8.1</li> <li>Microsoft® Windows®10</li> <li>Microsoft® Windows Server®2012/2012 R2※</li> </ul>
	CPU	<ul style="list-style-type: none"> <li>Intel® Core i5 以上 (3.1GHz)</li> </ul>
	メモリ	<ul style="list-style-type: none"> <li>8GB以上</li> </ul>

## デジタル教材

(株)日本標準と共同開発したデジタル教材。

対象学年	小学校3～6年生				
対象教科	国語、算数				
出題範囲	確認テストと練習問題の2種類から構成。				
	<table border="1"> <tr> <td>国語</td> <td>前学年および対象学年の全漢字・言葉のきまり (3年：597問、4年：637問、5年：620問、6年：597問)</td> </tr> <tr> <td>算数</td> <td>前学年および対象学年の全学習内容 (3年：583問、4年：576問、5年：572問、6年：568問)</td> </tr> </table>	国語	前学年および対象学年の全漢字・言葉のきまり (3年：597問、4年：637問、5年：620問、6年：597問)	算数	前学年および対象学年の全学習内容 (3年：583問、4年：576問、5年：572問、6年：568問)
国語	前学年および対象学年の全漢字・言葉のきまり (3年：597問、4年：637問、5年：620問、6年：597問)				
算数	前学年および対象学年の全学習内容 (3年：583問、4年：576問、5年：572問、6年：568問)				
データ形式	HTML5				
D R M	不正コピー・改ざん防止を目的とした著作権保護技術を採用。				

■カタログについてのご注意 ●Microsoft, Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。●インテル, Intel, インテル Coreは、アメリカ合衆国およびその他の国におけるIntel Corporationの商標です。●STUDYFITを含むスタディシリーズは、故・中山和彦、東原義訓、余田義彦、山井一夫 各先生の教育におけるコンピューター利用の研究・実践成果を盛り込み、シャープ株式会社とシャープビジネスソリューション株式会社と共同で開発した学校教育用ソフトウェアです。●その他、製品名などの固有名称は、各社の商標または登録商標です。●本システムは仕様改善のため予告なく仕様変更する場合があります。●学習成果について結果が出ることを保証するものではありません。

## シャープ株式会社

本社 〒545-8522 大阪市阿倍野区長池町22番22号

ご相談窓口

シャープビジネスソリューション株式会社

教育ICT担当 電話 03-5446-8312

〒105-0023 東京都港区芝浦1-2-3 シーパンス5館

http://www.sharp-sbs.co.jp/



●このカタログの用紙には、環境に配慮した植林木を使用しています。  
●このカタログは環境に配慮した植物油インキを使用しています。



# SHARP

# 教育ソリューション

2016-4

## タブレット端末を活用した個別学習システム

# スタディ フィット STUDY FIT

児童の基礎学力を伸ばす、個別学習をサポート



画面はハメコミ合成です。

## STUDYFIT 3つの特長

1

到達状況に応じた  
ふり返り学習

2

効果的な指導を  
サポート

3

かんたん運用

# 確認テストで児童の苦手ポイントを発見！ 個別の学習で基礎学力が定着。



佐賀県多久市実証研究  
児童アンケートの回答より



## STUDYFIT 3つの特長

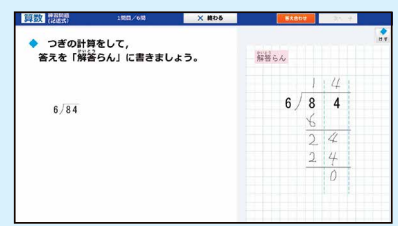
**Point 1**  
到達状況に応じた  
ふり返り学習

●「確認テスト」で児童の到達状況を診断。児童ごとの学習計画に反映されるため、基礎学力が向上します。

すべての子どもに学力を  
**日本標準**



漢字の書き取り問題の例。手書きエリアに大きく書いて、解答の確認も行えます。



算数の問題例。難易度に応じて、手書きエリアに補助線を入れて出題されます。

※デジタル教材は、(株)日本標準と共同開発。

**Point 2**  
効果的な指導を  
サポート

●教員用アプリケーションは、つまづいている児童やクラス全体の苦手問題を提示できるため、より効果的な指導が可能となります。

[教員用アプリケーション画面の例]  
進捗状況確認画面

進捗状況に加え、端末より送られてくる児童の解答・学習履歴により、「児童がどこでつまづいているか」がわかります。



理解状況確認画面  
誤答の多い問題順に表示されるため、クラス全体の苦手問題がわかります。



個人別、問題別の進捗・理解状況が一目で把握できるため、具体的な問題を個別に表示し、効率のよい指導につなげることができます。



**Point 3**  
かんたん運用

- 教室に通信環境がなくても、学習を進めることができます。
- 学習履歴や解答データを送信する際のみ通信環境を利用します。通信障害時においても学習に極力影響を与えない設計となっています。
- 単元別の小問で構成されているため、1日5分～10分のすきま時間での運用が可能です。指導計画を作り直さずに導入できます。